

## 荒木俊馬先生を悼む

### 弔 詞

わが国における天文学の揺籃期から発展期にかけて、私共に現代天文学の魅力を啓発して下さった荒木俊馬先生は、去る七月十日享年八十一才で逝去されました。宇宙の奥深くから矢継ぎ早にもたらされる未知との遭遇の真只中で、先生を失ったことは哀悼の念耐え難いものがあります。

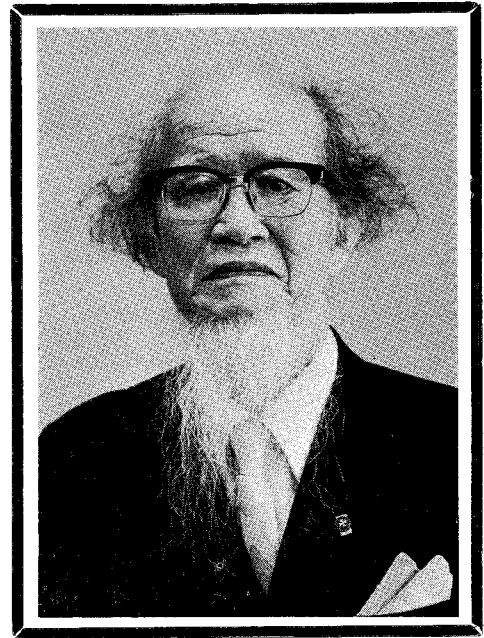
わが国における現代天文学の創始者の一人という側面から、先生を振り返ってみますと、大正十二年京都帝国大学理学部宇宙物理学科を御卒業後、先生は、変光星特にセファイド型変光星の輻射平衡理論の分野で非凡な才能を示され、当時世界の片田舎ともいべき日本から、西欧の天文学界に波紋を広げられました。

昭和初期、ドイツで K. Schwarzschild 学派の正統的な理論天文学を学ぶ傍ら、発展・完成期にあった量子力学をも吸収されました。帰朝後、少壮気鋭の荒木助教授は、わが国の近代天文学創始者新城教授の後を継いで、研究活動を天体力学、恒星大気理論、恒星内部構造論、宇宙論等理論天文学全般にまで広げられ、一方では日食観測にも携わられました。先生のこのような幅広い学術活動によって、わが国の学術水準は著しく向上しました。先生はまた、研究者の育成にも御熱心で、先生門下から数多くの俊秀が生まれました。

昭和二十年八月十五日、日本敗戦の衝撃は先生にとっても大きく、先生は京都帝国大学の要職を辞任され、自由な研究環境を求めて、京都府丹波郡上夜久野の山峡に隠棲されました。しかし、パロマー天文台大望遠鏡の活躍情况等、終戦後初めて接する天文学の最前線を傍観するには、先生の血は熱すぎたようです。天文学自体はもとより、研究者の育成と天文学の向上に対する情熱は、ますます燃えさかるばかりでした。

昭和二十年初期から三十年初期にわたる隠棲中の仙人生活を通じ、今までの御研究の集大成と研究者育成を期して、「天文字宙物理学総論」七巻を、ついで「カント宇宙論」の全訳を、そして現代天文学の進歩に即応した形で、広く天文学の啓蒙を目的とした圧巻「現代天文学事典」を出版されました。また先生は、日本古暦にも造詣が深く、いくつかの著作を残されました。

戦後の荒廃期、わが国の現代天文学が蘇生するに当っ



て、これらの学術専門書のみならず、これらを完遂された先生の力強い魂によって、私共の多くが鼓舞されました。このような多彩な御業績にかんがみ、昭和三十九年先生は日本天文学会の名誉会員に推挙されました。

京都産業大学総長としての激務の傍ら、昭和四十八年ポーランド科学アカデミーの招待により、コペルニクス生誕五百年記念国際会議にて「Der Mensch und der Kosmos」(人間と宇宙)というテーマで記念講演なされ、喝采を博されたのもつきのうのような思いが致します。また、この度、ポーランド政府よりポーランド最高功労十字勲章 Gold Comandoria を受章されたと聞いております。

私共は、先生の齢の一日も永からんことをお祈りしていた次第ですが、いまや先生の力強い魂に接することは出来なくなってしまいました。しかし、先生が築かれた礎石は、将来もわが国における天文学の堅固な跳躍台として生き続けることを信じて止みません。

ここに日本天文学会を代表して、先生の御冥福をお祈り致します。

昭和五十三年七月二十二日

日本天文学会 末元善三郎